

## ○ワークショップ 「YNU-NANZAN ファイナンス」

開催責任者 経営学部 竹澤直哉  
池田亮一

2018年10月27日

10月28日

南山大学J棟5階J55教室



ワークショップは以下のとおり、開催された。

### ◇研究目標

発表の機会が少ない大学院生や若手研究者に対しても、早い段階での研究成果に対して、情報交換することによって最新の研究等について学ぶ機会を設ける。今年度は資本市場、リスク管理や行動ファイナンスなどに関する大学院生の研究について行う。

### ◇報告者および題目

10月27日（土）

司会：秋山太郎（横浜国立大学）

1. 李 焱（南山大学）

「ヘッジ会計におけるリスクの捉え方」

2. 大鐘雄太（南山大学）

“Bank Characteristics and Bank Lending to New Firms”

司会：森田 洋（横浜国立大学）

3. 畠中賢治（大阪大学）

「ティック・サイズ縮小が指値注文市場の価格発見機能に与える影響について」

4. 太田 亘（大阪大学）

「証券市場における大口投資家と流動性：日本銀行 REIT 購入のケース」

10月28日（日）

司会：倉澤資成（大阪学院大学）

1. 陳 栩龍（横浜国立大学）

“Rare Disasters, Recoveries and the Implications for Asset Pricing”

2. 伊藤有希（横浜国立大学）

「民間企業主導の Creative City Planning に関する研究」

◇ワークショップの討論内容

ワークショップは南山大学経営学部教員によって始められた日本最初のファイナンス専門のワークショップであり、財務論・ファイナンス理論研究の推進において重要な役割を果たしてきた。現在は、横浜国立大学と隔年で開催されており、例年、この分野のトップの研究者が参加している。

参加者には野村証券のリスク管理に携わっている実務経験者もおり、本ワークショップで行われた議論がリスク管理の観点から見ても、その応用の可能性があることを伺わせる結果となった。

長期的な視点から見た場合に、若手研究者による報告が4件と多く、活発な議論を通して、今後の研究に対する多くの議論が行われた。本ワークショップは、伝統的に討論者を設けないことで、幅広い分野からの質疑応答を可能にし、活発な議論が行われる形式をとっている。

また、最新の計量経済分析手法に関する議論を行う中で、新しい手法の応用範囲が計量経済に留まらず、幅広く応用できることを共有しただけでなく、会計・地域開発との学際的分野に関する知見も多く得られた。ビッグデータが整備されつつある現代において、金融ティックデータの観点から詳細な投資家行動に関する洞察も紹介され、今後の発展が期待される研究分野に対する理解も深める機会を提供できたことは非常に有用であった。

南山大学経営学部・経済学部教員、横浜国立大学教員、その他の大学・研究機関および金融機関等からの参加者がおり、幅広い分野の研究者が交流することもできた。また、横浜国立大学教員には南山大学を経て、本ワークショップと関わりながら研究者となり、横浜国立大学での開催に携わっている。このことから、本ワークショップは多くの研究者育成に貢献している。